

令和4年度教育計画 (食物栄養学科)							
科目名	ソサエティ 5.0 理解	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは研究室 (B308) 土 0910～1040							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】 近未来社会の人間学 ※Society5.0の技術的・情報学的な問題は ICT リテラシーの授業で学ぶ</p> <p>①来るべきソサエティ 5.0 (超スマート社会) の概要と特色を理解する。ソサエティ 5.0 とは政府が提案する「我が国が目指すべき近未来社会の姿」であり、科学技術基本計画に謳われている。コンピュータが作り出すシミュレートされたサイバー空間 (仮想世界) と目の前の生々しいフィジカル空間 (現実世界) が遊離するのではなく、個人や社会全体で上手に融合し、巨大で複雑な情報 (ビッグデータ) に基づいて生産や生活が営まれるので、時間や労力の無駄がなく、長年の社会的課題 (少子高齢化、地方の過疎・都市の過密、経済的格差、疾病予防…) を解決しようとするものである。我々の人間性や社会性がしっかりと確率していれば犯罪利用を防ぎ、人間性を最優先できる社会が実現することも夢ではない。</p> <p>例えば現在でも家電製品、建物、乗り物、おもちゃなど日常的なものから、医療や介護の用具から兵器に至る特殊なものまで、あらゆるものに AI が搭載され、それらがインターネットでつながり、管理されている。これらに 5G (ファイブ・ジー、第 5 世代移動通信システム) が基盤として完全に整備され、4G の 10 倍の高速大容量・高信頼・低遅滞・多数同時接続が稼働する時、我々人間はどのような生活を営み、どのような人生を送るようになっているのか、次世代を担う子ども達にはどのような影響があり、保育者はどのような環境設定や教育をすればよいのか等についても考察し、将来の役に立てる。</p> <p>②人間とは何か、“現実空間からサイバー空間への移住”を求められようとしている人間は今後どのような存在になっていくのか、について知り、じっくりと繰り返し考え、大学生として必要な初歩的な教養形成をはかる。</p> <p>【学生の学習成果】</p> <p>専門的学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> クリエイティブ力：新食品企画開発力など マネジメント力：ヘルスプランの創案など ホスピタリティ力：心身のサポートや精神的にケアする力など <p>汎用的学習成果</p> <p>仕事だけでなく、社会生活、家庭生活も含めた人生の営み全体に必要な「態度・信念・意見」と教養を身に着ける</p>						
	教	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>担当教員が準備し、進行させていく講義である。受講生の専門領域を配慮して授業のラインナップを構成し、題材を準備する。授業中は対話という双方向的要素も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。</p>				
育	予習・復習	<p>1 単位 45 時間の計算によって、講義は 30 時間、演習は 15～30 時間の予習・復習を義務付ける。</p> <p>学問の性格上、簡単には正解にたどりつけない。ゆっくり考えて良いし、何回も考え直してよい。すなわち、悩んだり迷ったりして消費した時間も予習復習時間に計算に入れて良いのである。</p>					
方	テキスト	<p>特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。</p>					
法							

学習評価の方法	<p>【達成基準】</p> <p>①来るべきソサエティ 5.0（超スマート社会）の概要と特色、今後数十年間の人類の生活や人間の生き方、加えて次世代を担う子ども達への影響や教育者としての役割について理解している。（筆記試験の50%＝知識）</p> <p>②人類とは何か、人間とは何か、人間に求められる倫理や道徳は何かについて知り、じっくりと繰り返し省察出来ており、大学生として必要な初歩的な教養が形成されている。（筆記試験の50%＝倫理）</p> <p>以上を筆記試験において証明すること。</p> <p>【試験方法について】</p> <p>自筆ノート（ルーズリーフはバインダーから外してクリップ等で留める）持ち込み可。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果 筆記試験：授業領域に関する用語や事例の説明および数百字の論述を課する（70%） シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解について評価に入れる（30%） ・汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。
注意事項	<p>参考図書は古今東西の名著から折に触れて指示する</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0（例）政府広報「Society 5.0」Cast 上白石</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 (Society5.0) とは何か</p> <p>①ソサエティ 5.0 の意味（歴史的意味）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソサエティ 1.0 狩猟社会 技術革新＝道具による狩猟、キャンプ生活、移動しながら暮らす ・ソサエティ 2.0 農耕社会 技術革新＝食料の増産と貯蔵、村を作る、定住する、城壁を造る、戦いの激化 ・ソサエティ 3.0 工業社会 技術革新＝蒸気機関と内燃機関の発明、自動車や飛行機で世界を移動する、地球規模の戦い、宇宙空間への進出 ・ソサエティ 4.0 情報化社会・スマート社会 技術革新＝コンピュータとインターネット、家に居ながら世界とつながる ・ソサエティ 5.0 超スマート社会 技術革新＝AI・VR・ロボット、現実空間から旅立ち仮想空間で暮らす、2030年頃か或いは2050年頃の世界 <p>②ソサエティ 5.0 のイメージ（どんな生活になっていくか）</p> <p>■作業</p> <p>①親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）IoT（Internet of Things インターネットにつながった冷蔵庫）、AI(Artificial Intelligence 人工知能)、ロボット（robot 人に代わって労働する機械）</p> <p>②“スマート”という言葉の意味と実例を検索してみよう。賢い、おしゃれ、ハイテクな、精密で高感度な、情報処理機能を持った、高度に知的な…</p> <p>■考察</p> <p>ソサエティ 5.0 の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）身代わりロボット（自分の代わりに学校に行ってくれる→自分の代わりにコンサートに行っといってくれる→自分の代わりにデートしておいてくれる…）</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ（例）カロママ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

2 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0（超スマート社会）の前段階、ソサエティ 4.0（情報化社会、スマート社会）のこと</p> <p>■作業：①情報社会の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）インターネット、掲示板、ブログ、SNS、オフ会、ネットゲーム、コントローラー（左右の6本指を自由に操る子供たち）</p> <p>■考察：情報社会の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ユートピア、サイバーパンク、ネット予約</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
3 回	<p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と ICT（Information and Communication Technology）、IT は情報技術、ICT は情報通信技術（技術の“使い方”まで範囲に入る）</p> <p>■作業：①IT と ICT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。</p> <p>■考察：IT、ICT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
4 回	<p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と IoT（Internet of Things） 情報・知識の共有</p> <p>■作業：①IoT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）自動操縦、自動車のインターネット化、旅先からスマホで遠隔操作できる猫トイレ…、</p> <p>■考察：IoT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）旅先からスマホで家の中をモニタリングする、子どもや認知症高齢者の現在地や行動履歴を常時監視できる GPS アイテム、子ども・家族…ペット…恋人の常時監視</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
5 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と AI（人工知能） 情報分析の負担軽減</p> <p>■作業：①AI（Artificial Intelligence） の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）お掃除ロボット（ルンバ）、自動運転、Siri（Speech Interpretation and Recognition Interface）、感情のあるロボット Pepper（ペッパー）、将棋 AI（PONANZA）</p> <p>■考察：AI の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

6 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ロボット、無人ロボット・支援ロボット→労働環境改善と危険回避</p> <p>■作業：①ロボット (robot) の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) ロボット (人に代わって労働するタイプ、人間が働かなくてもよい)、アンドロイド (容姿を誰かにそっくりに作っているタイプ、死んだ人の代わり)、オートマタ (自動人形、自分の意思はないタイプ、外形は重視)。</p> <p>■考察： ロボットの善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) 介護支援ロボット、保育支援ロボット、ロボット兵士</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。■映像におけるソサエティ 5.0</p>
7 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容： ソサエティ 5.0 と映像技術 VR/AR/MR/SR VR (Virtual Reality) 医療支援 VR ソフト「オザイリクス」(Osirix) 内臓を 3D で表現し医師・看護師・技術者でイメージ共有、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」(VR ソフトと組み合わせてミリ以下の手術、GPS で臓器の裏側まで把握)</p> <p>■作業：①VR の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) 観光客誘致、名古屋城問題、「お城の天守閣を木造復元するのがよいか、スマホをかざして AR で、あるいはゴーグルを付けて VR で出現させて、戦場体験までできるのがよいか」</p> <p>■考察： VR の善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) 3D 画像を使った手術支援ロボット (ダ・ヴィンチ)、ゲーム依存、引きこもり</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
8 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容： ソサエティ 5.0 と輸送技術、ドローン (drone 蜂)、輸送物流効率化と地域格差是正</p> <p>■作業：①ドローンという言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) トイドローン、ドローン芸人、宅配ドローン、『スローな武士にしてくれ』(NHKのクローンスタッフが 4 K スーパースローカメラを搭載したドローンで撮影する)</p> <p>■考察：ドローンの善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) 災害救助ドローン、医療ドローン、殺人ドローン、無人戦闘航空機、観光ドローン</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
9 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容： ソサエティ 5.0 と情報の作られ方、ビッグデータ、(例) 携帯電話位置情報から地域住民の動きを把握 (コロナウイルス感染対策) →都市封鎖、購入履歴・閲覧履歴→購入提案 (刻々と入ってくる商品情報→あなたはこの商品を買うべき!)、信用調査 (瞬時にカード作成)、クラウドからのデータ入手、</p> <p>■作業：①ビッグデータ言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) PASMO、Suica、ICOCA、ドライブカメラ</p> <p>■考察：ビッグデータの善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) マイナンバー、若者定住、</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

10 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と生活アイテム（例）ウェアラブル、モニタリング</p> <p>■作業：①ウェアラブル言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）スマートウォッチ、GPS 内蔵の学生服、服のディスプレイ化、ウェアラブル端末 Mof Band</p> <p>■考察：ウェアラブル、モニタリングの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ウェアラブル健康管理アイテム、子どもや恋人の常時監視</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
11 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と仕事・人生（例）在宅勤務、テレワーク（Tele Work）、リモートワーク（Remote Work）、サテライトオフィス</p> <p>■作業：①在宅勤務の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）新海作品『秒速 5 センチメートル』の主人公（心を病んだあと、在宅勤務）</p> <p>■考察：在宅勤務の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
12 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と地域創生、地域連携</p> <p>■作業：①“地域創生”“地域連携”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）過疎、過密、『ポツンと一軒家』、スラム街、田舎生活、山村留学、『人生の楽園』、『ドキュメント 72 時間』</p> <p>■考察：地域創生、地域連携の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
13 回	<p>■講義内容：ソサエティ 5.0 の便利さとプライバシー問題、（例）デジタルツイン</p> <p>■作業：①“デジタルツイン”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例えばスマホの位置情報と買い物データだけでも、特定個人のプライバシーをほぼ推測できる。住まい・職場・遊び場など、趣味嗜好はもちろん、買い物中毒か、パチンコ中毒か、異性関係、転職予定か…など未来予測的なことまで様々なことが把握できる）</p> <p>■考察：デジタルツインの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

14 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と未来の芸術、AI 自動作曲、AI 自動振り付け</p> <p>■作業：①</p> <p>②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例)、</p> <p>■考察：スマートの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。■映像におけるソサエティ 5.0</p>
15 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と人間存在について デジタル化する身体、デジタル人格、デジタル来世（死後もデジタル化した自分がアバターで生き続ける）</p> <p>■作業：①ソサエティ 5.0 時代の文学・音楽・映画は“AI が創造して AI が鑑賞する”、すなわち人間は何もしない、これで面白いのか？考えてみよう</p> <p>②興味を感じる具体例を書き出してみよう。</p> <p>■考察：人類や人間が行ったり発明してきた善と悪について考えてみよう。(例) 技術開発、環境破壊、兵器の発明、文芸の創造、単なる生殖でなく愛という価値の創造</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	基礎数学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学での様々な授業科目の学習において、数学的な論理的思考力や計算能力は欠くことができない。本講義では、栄養士として必要最低限の数学の知識と応用能力の習得を目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した専門的学習成果と数量的スキルや論理的思考力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>プリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時にLMS等による振り返り(本時の学びや感想・質問等)の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項:各回の授業前にプリントに目を通し、学習内容を把握しておく。(90分)</p> <p>復習事項:毎回の授業でその内容のポイントを示すので、プリントの見直しや整理をする。(90分)</p>					
	テキスト	特に指定せず、適宜プリントを用いる					
学習評価の方法	<p>各回の小テスト及び振り返りレポート (50点)</p> <p>定期試験 (50点)</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、数の種類・性質</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>数と式の計算（1）</p> <p>足し算と引き算、かけ算（累乗、指数法則）と割り算、四則計算</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>数と式の計算（2）</p> <p>文字式（分配法則、乗法公式）、式の展開・因数分解</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>数と式の計算（3）</p> <p>割合（歩合、パーセント）、平方根、指数と対数</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>数と式の計算（4）</p> <p>単位（距離、重量、食品、栄養素、エネルギー）</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>数と式の計算（5）</p> <p>不等式、関数とグラフ（1次関数、2次関数、n次関数）、</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>数と式の計算（6）</p> <p>一次方程式、二次方程式</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>データ分析（1）</p> <p>有効数字、代表値</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>データ分析（2）</p> <p>標準偏差</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>集合と命題</p> <p>集合（和集合、和集合、空集合、補集合）、命題（真・偽）、逆、裏、対偶。</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>場合の数と確率（1）</p> <p>樹形図、階乗、順列、組合せ</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>場合の数と確率（2）</p> <p>確率の性質、いろいろな確率（独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率）</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>整数その他</p> <p>約数と倍数、n進法、期待値、オッズ</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>方程式（1）</p> <p>方程式の立て方、解き方</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>方程式（2）</p> <p>方程式の立て方、解き方を学び、問題解決力を修得する</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	ICTリテラシーI	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータの基本構成や仕組みについて説明できる。 ● コンピュータでのデータの表現について説明できる。 ● 様々な情報技術について仕組みや役割について説明できる。 ● ICT 活用を問題解決の手順について説明できる。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した 4 つの専門的学習成果と情報リテラシーや論理的思考力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時に LMS 等による振り返り (本時の学びや感想・質問等) の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項 : 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90 分)</p> <p>復習事項 : 各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90 分)</p>	<p>テキスト</p> <p>國友義久 : 2011 『IT の基礎』近代科学社</p>			
学習評価の方法	<p>定期試験 (50 点)</p> <p>授業内での小テスト及び振り返りレポート (50 点)</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、コンピュータの歴史、電子メール</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>コンピュータの基本構成と入出力装置</p> <p>ハードウェア・ソフトウェアの役割と性能、入出力の形態</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>プロセッサの仕組みと性能評価</p> <p>プロセッサの仕組みと役割、プログラムの実行とプロセッサの実行と命令</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>データの表現①</p> <p>アナログとデジタル、2進数、10進数、16進数</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>データの表現②</p> <p>画像・音声・文字の表現</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>補助記憶装置</p> <p>補助記憶装置の役割と機能、磁気・光ディスク</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>入出力インタフェース</p> <p>入出力インタフェース、インタフェースとの種類</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>オペレーティングシステム</p> <p>オペレーティングシステムの役割と機能</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>アプリケーションソフトウェア</p> <p>共通・個別アプリケーションソフトウェア</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>データベース</p> <p>データベースの概念と必要性、関係データベース</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>ネットワーク</p> <p>通信ネットワークシステムの基本構成</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>インターネット</p> <p>インターネットの仕組みと通勤規約</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>情報セキュリティー</p> <p>情報セキュリティーの必要性と対策、脅威と脆弱</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>ICTを活用した問題解決</p> <p>問題解決の基本的な手順、コンピュータの役割</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	ICTリテラシーⅡ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レポートの作成と編集ができる。 ● 表計算ソフトを活用し、情報の整理や活用ができる。 ● プレゼンテーションに関する基礎知識について学ぶ。 ● 毎分 30 文字以上のタッチタイピングができる。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した 4 つの汎用的学習成果と情報リテラシーや数量的スキルについて授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時に LMS 等による振り返り (本時の学びや感想・質問等) の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>	<p>予習事項 : 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90 分)</p> <p>復習事項 : 各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90 分)</p>	<p>テキスト</p> <p>杉本くみ子、大澤栄子 ; 2019 『30 時間アカデミック Office2019』 実教出版</p>			
学習評価の方法	<p>定期試験 (40 点)</p> <p>授業内での各回の課題及び振り返りレポート (50 点)</p> <p>タイピング (10 点)</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、基本操作、タイピング</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>文章の作成</p> <p>文章の編集やレイアウトの設定</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>レポートの作成と編集</p> <p>レポート作成の基本的な流れ</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>レポートの作成と編集</p> <p>情報の収集と引用</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>レポートの作成と編集</p> <p>レポートの構成と章立て</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>データの入力・編集</p> <p>データの基本、データの入力や編集</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>表の作成</p> <p>基礎的な関数や書式</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>いろいろな数式</p> <p>応用的な関数</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>グラフと図形</p> <p>グラフの作成とその特徴</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>グラフの活用</p> <p>グラフの効果的な表現方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>プレゼンテーションの作成</p> <p>プレゼンテーションの基本、スライドの作成</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>プレゼンテーションの作成</p> <p>プレゼンテーションのストーリーの組み立て方</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>図やオブジェクトの挿入と編集</p> <p>図やオブジェクトの挿入と編集</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>特殊効果とスライドショーをサポートする機能</p> <p>アニメーション、リハーサル</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	データサイエンス I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学の専門科目においては、観察、実験、調査、その他のいろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求されるため、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な統計学や統計的知識について説明できる。 ● データの処理や分析方法などの統計的スキルが身につく。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した2つの専門的学習成果と数量的スキルや論理的思考力、問題解決力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時にLMS等による振り返り(本時の学びや感想・質問等)の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項:各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90分)</p> <p>復習事項:各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90分)</p>					
	テキスト	<p>相澤裕介:2019『統計処理に使うExcel 2019 活用法—データ分析に使えるExcel実践テクニック—』カットシステム</p>					
注意事項	<p>参考図書:</p> <p>玄場 公規 他:Excel で学ぶビジネスデータ分析の基礎 オデッセイコミュニケーションズ、2016</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、Excelの基本操作</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>統計学基礎</p> <p>基本統計量（平均値、中央値、最頻値、レンジ）</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>関数</p> <p>統計処理のための関数</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>グラフ作成とテーブル作成</p> <p>様々なグラフの作成とテーブル作成、クロス集計</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>統計処理①</p> <p>相対評価のための統計処理</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>統計処理②</p> <p>絶対評価のための統計処理</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>統計処理③</p> <p>成績評価のための統計処理</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>分散と標準偏差</p> <p>分散と標準偏差の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>偏差値</p> <p>偏差値の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>母集団と標本、不偏分散</p> <p>母集団と標本の平均と不偏分散の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>正規分布</p> <p>正規分散の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>相関</p> <p>相関の統計的理解と算出・分散方法</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>平均値の信頼区間</p> <p>信頼区間の統計的理解と算出・分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>アンケートの信頼区間</p> <p>アンケートの具体例と調査分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	データサイエンスⅡ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後				e_mail : nosho@owc.ac.jp			
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学の専門科目においては、観察、実験、調査、その他のいろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求されるため、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シミュレーションや分析のための高度な統計処理方法について知る。 ● アンケートなどのデータをもとに高度な統計処理方法について知る。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した2つの専門的学習成果と数量的スキルや論理的思考力、問題解決力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時にLMS等による振り返り(本時の学びや感想・質問等)の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項: 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90分)</p> <p>復習事項: 毎回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90分)</p>					
	テキスト	<p>相澤裕介: 2019、『統計処理に使う Excel 2019 活用法—データ分析に使える Excel 実践テクニック—』カットシステム</p>					
学習評価の方法	<p>小テスト (50点)</p> <p>各回の課題及び振り返りレポート (50点)</p>						
注意事項	<p>データサイエンスⅠも履修することが望ましい</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、Excelの基本操作</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>平均値の比較</p> <p>帰無仮説と対立仮説、t検定とF検定</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>母集団の分散の比較</p> <p>F検定による分散方法と等分散・不偏分散</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>等分散のt検定</p> <p>等分散のt検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>不偏分散のt検定</p> <p>不偏分散のt検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>対応のあるt検定</p> <p>対応のあるt検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>比率の比較</p> <p>比率の比較と期待値の算出の統計的理解、X²検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>分散分析</p> <p>分散分析の統計的理解とF分布</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>1 要因の分散分析</p> <p>1 要因の分散分析と統計的理解</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>2 要因の分散分析</p> <p>2 要因の分散分析と統計的理解</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>テキストマイニング</p> <p>形態素解析とクラスタ分析、共起ネットワーク、コレスポネンス分析</p> <p>実験計画法、コホート研究、相対リスク（リスク比）、ハザード比</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>論文作成のための統計分析記述方法</p> <p>図表の作成方法と有効数字、表記法</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>アンケート作法とWebアンケート作成</p> <p>様々なアンケートと尺度、WEBを用いたアンケート作成方法</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>アンケート調査と分析</p> <p>アンケート調査と分析</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	インターネットと法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近 勝彦
質問受付：毎月曜日午後4時10分—午後5時		e-mail：dark-blue@star.nifty.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：21世紀初頭の情報化の中心は、インターネット関連であるといっても過言ではない。そのインターネットによって、我々は情報を入手・発信し、きわめて多くの利便性を得てきた半面、これまでの国家制度、社会制度、社会秩序、文化等に大きな変容が迫られている。ここでは、インターネットの法的課題を考察することを通じて、現代社会の諸問題を考察する。とくに、個人の視点にたつて、自らが様々なインターネットからの被害に巻き込まれないように、知識的実践的な護身力をつけることを目指す。さらに、近年は、「IoT ビッグデータ AI」が大きく新技術としてクローズアップされているので、新しい話題にも触れる。</p> <p>学生の学習成果：個人がインターネットを通じて取引するECや自身が情報を発信することも増えていくことが予想されるので、法的なトラブルに巻き込まれない知識やリテラシーを身につける。さらには、1年前期の講義であるので、法の構造や法律の解釈の仕方の基本的考え方を身につけることを目指す。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>まず、現在起きている様々なインターネットと法との接点をpptやHPおよび教科書を使用して多角的に議論する。そのあとに、自らが考え、判断する力を養成するためには、応用的な事例を提示するので、みんなで討論をしてみたい。そのうえで、担当の課題を決めて、学生が発表する。</p> <p>講義の終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>各回の予習・復習の時間はそれぞれ90分、あるいは合計180分</p> <p>復習としては、課題を考えて、適宜、発表してもらおう。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。</p>					
	テキスト	<p>近勝彦他著：『集客の方程式』、学術研究出版</p> <p>その他参考資料は適宜配布する</p>					
学習評価の方法	<p>急速に進むIT社会の中で、基礎的な法・社会現象の構造と問題点を理解し、それへの適切な対応が取れるような理解力を身につける。期末試験(70%)、レポート(30%)とする。</p>						
注意事項	<p>アクティブラーニングの観点も取り入れて、学生の主体的参加を活発化させるように講義を展開しますので、学生の積極的に参加意識を期待いたします。質問がある方は上記メールアドレスに質問を送ってください。必ず回答いたします。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	第一回目は、本講義のオリエンテーションをおこなう。 内容：なぜインターネットと法を考えるのかと AI のシミュレーション 検討課題：法の考え方と社会発展の調和および AI 社会の意義とその課題
2 回	タイトル：インターネットの基本的特徴と情報社会の進展 内容：なぜ新しい現代的課題が出現したか インターネットの普及状況 情報社会の特徴とインターネットの特徴 検討内容：「インターネットの負の側面を考える」
3 回	タイトル：AI ビッグデータ IoT とインターネットビジネス 内容：企業活動の AI 化 我々はいかに情報を入手し、いかに発信するか 経営と情報はいかに結びついているのか 検討内容：「新しい経営手法としての情報経営とは」
4 回	タイトル：電子商取引と法 1-拡大する EC とその問題点 内容：企業間取引とその課題 企業対個人間取引 個人間取引 検討内容：「EC は商慣習や法律をいかに変えるか」
5 回	タイトル：電子商取引と法 2-個人情報保護 内容：個人情報をいかに守るか 情報保護法に原則 検討内容：「インターネットを使った取引で個人情報保護をいかに守るか」
6 回	タイトル：電子商取引と法 3-著作権保護 内容：いかにして著作権を保護するか 国内法と海外の法の違いと課題 検討内容：「越境 EC の発展と著作権の課題」
7 回	タイトル：経験経済と情報化 1－経験と学習 内容：経験経済とは なぜ経験か 情報化は経験を高めるか 検討内容：「経験の価値を理解する」
8 回	タイトル：経験経済と情報化 2－ネットコミュニティ 内容：情報化による経験の事例研究 4つの E 検討内容：「Education Entertainment Esthetic Escape の価値と質」
9 回	タイトル：新しいワークスタイルと ICT 内容：テレワークを考える 仕事と余暇のバランス 検討内容：「テレワークのいい面と悪い面を考える」
10 回	タイトル：新しいライフスタイルと ICT 内容：ニューノーマルを考える 検討内容：「ネット生活の課題を考える」

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	タイトル：インターネットと社会問題 1-迷惑メール 内容：メールの便利さと問題点 迷惑メールにいかに対処するか 検討内容：「スパムメールは法によって制限できるか」
12 回	タイトル：インターネットと社会問題 2-ウイルス 内容：ウイルスの実態とそれをどう防ぐか 検討内容：「ウイルスの危険性と対策」
13 回	タイトル：インターネットビジネスその1 内容：シェアリングエコノミー 検討内容：「シェアードなビジネス」
14 回	タイトル：インターネットビジネスその2 内容：ネットで名物を販売する 検討内容：「地域 EC と越境 EC」
15 回	タイトル：総括 内容：AI時代の社会経済の発展の図式 検討内容：個人を大切にICTの応用とその可能性